

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

## 会計実務検定模擬試験（第1回）

# 管 理 会 計

**※この問題は当社が独自に作成したものです。**

### 注 意 事 項

1. 監督者の指示があるまで、問題は開いてはいけません。
2. 各解答用紙の指定欄（右下）に試験場校名・受験番号を記入しなさい。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 試験は「始め」の合図で開始し、「止め」の合図があったら解答の記入を中止し、ただちに問題を閉じなさい。
5. 制限時間は90分です。

【1】 次の文章の（ 1 ）から（ 6 ）の中に入る最も適当な語句を【解答群】の中から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

- ①管理会計の基本的な目的は、経営者の（ 1 ）に有用な情報を提供することにある。（ 2 ）が企業外部の利害関係者を対象としているのに対し、管理会計は企業内部の経営管理者を対象としている。
- ②原価の動きを管理するために、原価を変動費と固定費に分割しなおすことが必要になる。このプロセスを（ 3 ）といい、具体的な方法として費目別精査法や（ 4 ）などがある。
- ③構造的意決定は、経営の基本的な構造の変革を意図した意決定であり、（ 5 ）ともよばれる。多期間におよび多額の投資を必要とする場合が多く、投資案の採択には原価比較法や（ 6 ）が用いられる。

【解答群】

- |          |          |         |         |            |
|----------|----------|---------|---------|------------|
| ア. 財務会計  | イ. 回収期間法 | ウ. 原価分解 | エ. 予防原価 | オ. 業務的意思決定 |
| カ. 資本コスト | キ. ABC   | ク. 意決定  | ケ. 準変動費 | コ. 戦略的意思決定 |
| サ. 未来原価  | シ. 高低点法  |         |         |            |

【2】 次の各問に答えなさい。

問1 下記の〈資料〉にもとづいて、以下の（1）～（3）の問いに答えなさい。

〈資料〉

1. 製品1個あたりの予算販売価格および予算変動製造・販売費

販売価格	14,000 円
変動費	
原料費	5,820 円
加工費	2,860 円
販売費	280 円

2. 年間固定費予算

加工費	8,000,000 円
販売費・一般管理費	7,120,000 円

- （1）年間の損益分岐点の販売量を求めなさい。
- （2）売上高営業利益率が6%になる販売量を求めなさい。
- （3）販売量3,125個の場合における安全余裕率を求めなさい。

問2 当社は、製品甲と製品乙を製造・販売している。いずれの製品も材料を機械加工部で加工し、組立部で組み立てている。下記の条件にもとづき、以下の（1）（2）の問いに答えなさい。ただし、製品単位あたり変動費と月間共通固定費には販売費及び一般管理費を含んでいる。

	製品甲	製品乙
販売単価	3,600 円	4,800 円
製品単位あたり変動費	2,000 円	3,100 円
月間共通固定費	9,134,000 円	

	製品甲単位あたり標準作業時間	製品乙単位あたり標準作業時間	最大可能作業時間
機械加工部	1.5 時間	1.5 時間	10,500 時間
組立部	2.0 時間	4.0 時間	20,000 時間

- （1）製品甲の最大需要量は6,000個、製品乙の最大需要量は4,000個であるとして、月間の最適セールス・ミックスを求めなさい。
- （2）最適セールス・ミックスのときの月間営業利益はいくらか。

問3 受注生産を行う東西工場は活動基準原価計算を採用しており、直接材料費を除くコストを次のように4つの活動に集計して、各注文品に配賦している。

活動	コスト・ドライバー	ドライバー単位当たりコスト
材料取扱い	材料重量 (kg)	140円
段取り	段取回数 (回)	24,000円
加工	生産数量 (個)	70円
包装・出荷	注文回数 (回)	13,000円

東西工場は製品AとBを製造・販売するが、通常1回の段取りで製品Aは1,000個、製品Bは600個生産している。製品Aであれば注文数量の合計が1,000個になってから、製品Bであれば600個になってから生産する。また、包装・出荷は製品別に行っているため、1人の顧客からの注文であっても製品AとBの注文が含まれる場合、包装・出荷費は注文2回分を賦課することになる。

さて、南北商店から、製品A900個、製品B600個の注文があった。なお、1個当たりの直接材料費は、それぞれ180円と270円、1個当たりの材料重量は、それぞれ、0.5kgと0.9kgである。この場合、次の(1)と(2)に答えなさい。

- 南北商店に出荷する製品(A900個、B600個)の売上原価はいくらか。
- 上記の南北商店から特別な配色でカラーリングしてほしいと注文があったとすれば、南北商店に出荷する製品(A900個、B600個)の売上原価はいくらとなるか。ただし、そのカラーリングを行うために追加的な材料が1個当たり10円、また、通常の段取作業は行わない代わりに、カラーリング用の特別な段取作業等(A・Bそれぞれ1回につき25,000円)が必要となる。

【3】次の資料にもとづいて、予算運算表を作成しなさい。ただし、製品および仕掛品の在庫は毎期一定とする。

〈資料〉

- 売上高予算 製品A : 3,500千円  
製品B : 5,420千円
- 製造原価予算

製品別標準原価カード (製品1個あたり)

(単位：円)

費目	製品A			製品B		
	数量または時間	標準単価	標準原価	数量または時間	標準単価	標準原価
直接材料費	3個	¥41	¥123	2個	¥32	¥64
直接労務費	2時間	50	100	3時間	50	150
製造間接費	2時間	26	52	3時間	26	78
標準原価			275			292

製品A製造数量 9,000個

製品B製造数量 13,000個

- 製品および仕掛品の在庫については、在庫予算に基づいて予算運算表に記入済みである。
- 財務予算

現金収入：

現金期首手元有高	1,000千円	受取手形の回収	2,340千円
売掛金の回収	6,800千円		

現金支出：

支払手形の決済	1,000千円	買掛金の支払	1,990千円
直接労務費	2,850千円	製造間接費	1,232千円
販売費及び一般管理費	1,948千円	支払利息	90千円
工具・器具・備品	30千円		

信用予算 (単位：千円)

摘要	受取手形	売掛金
期首有高	560	860
期中売上による増加	2,280	6,640
現金による満期回収	2,340	6,800
期末有高	500	700

5. 上記以外のデータ

材料・仕入債務 (単位：千円)

摘要	支払手形	買掛金
期首有高	200	1,050
期中仕入による増加	900	1,040
現金による満期支払い	1,000	1,990
期末有高	100	100

減価償却費明細 (単位：千円)

資産の種類	製造経費	販売費及び一般管理費	合計
建物	100	50	150
機械設備	80	—	80
工具・器具・備品	70	10	80
	250	60	310

**【4】全商工業では、製品の製造に直接標準原価計算を用いている。次の資料に基づいて(1)、(2)の問いに答えなさい。**  
 (資料)

1. 生産データ (単位：個)

月初仕掛品 800 (0.5)  
 当月投入 8,000  
 合計 8,800  
 月末仕掛品 600 (0.5)  
 完成品 8,200

材料はすべて工程の始点で投入し、( )内は加工進捗度をあらわしている。

2. 製品1個当たりの標準変動製造原価

直接材料費 400 円/kg × 2kg = 800 円  
 直接労務費 1,200 円/時間 × 1 時間 = 1,200 円  
 製造間接費 900 円/時間 × 1 時間 = 900 円

3. 製造間接費変動予算

変動費率 900 円/時間 固定費(月間)6,600,000 円

4. 販売費及び一般管理費

標準変動販売費 200 円/個  
 固定販売費及び一般管理費(月間予算) 1,230,000 円

5. 当月の実績データ

当月販売数量 8,150 個  
 直接材料費 405 円/kg × 15,800kg = 6,399,000 円  
 直接労務費 1,240 円/時間 × 8,200 時間 = 10,168,000 円  
 製造間接費 変動製造間接費 7,450,000 円  
 固定製造間接費 6,600,000 円

販売費及び一般管理費

変動販売費 1,793,000 円  
 固定販売費及び一般管理費 1,300,000 円

- (1) 製品1単位当たりの標準原価を求めなさい。
- (2) 標準・実績差異分析を行いなさい。

**【5】 次の資料に基づいて、問1から問4に答えなさい。**

〈資料〉

1. 全商株式会社は、第1年度の期首に行う予定の耐用年数3年の設備7,200,000円への設備投資案について検討している。
2. この投資案によって増加する今後3年間の税引前当期純利益は、500,000円 320,000円 300,000円である。
3. 全商株式会社の資本コストは5%であり、現価係数は次の通りである。

1年	2年	3年
0.9524	0.9070	0.8638

4. 資本コストは税を考慮したものであるとする。
5. 設備は残存価額を零(0)として定額法で減価償却を行う。
6. 法人税等の税率は40%とする。なお、全商株式会社は将来において、十分な利益を確保できるものとする。

問1 每期計上する設備の減価償却費はいくらか。

問2 第1年度末の割引計算前のキャッシュ・フロー(税引後)はいくらか。

問3 この投資案の正味現在価値はいくらか。また、正味現在価値法にもとづいて判断した場合、投資を実行すべきか否かについて解答用紙の選択肢を○で囲みなさい。

問4 第3年度末に設備は170,000円で売却可能と予想される場合(第3年度末の税引前当期純利益300,000円にはこの170,000円が含まれていない)、第3年度末の割引計算前のキャッシュ・フロー(税引後)はいくらか。

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会  
 会計実務検定試験模擬問題（第1回） 管理会計

## 解 答 用 紙

【1】

1	2	3	4	5	6

【2】問1 (1) 年間の損益分岐点の販売量  個

(2) 売上高営業利益率が6%になる販売量  個

(3) 安全余裕率  %

問2 (1) 製品甲  個      製品乙  個

(2) 月間営業利益  円

問3 (1)

	製品A (900個)	製品B (600個)
南北商店への売上原価	円	円

(2)

	製品A (900個)	製品B (600個)
南北商店への売上原価	円	円



【4】(1)  円

(2)

変動原価差異	数量差異	円 (借方・貸方)
	貨率差異	円 (借方・貸方)
	予算差異	円 (借方・貸方)
	能率差異	円 (借方・貸方)
固定原価差異	固定販売費及び一般管理費差異	円 (借方・貸方)

【5】問1 設備の減価償却費  円

問2 第1年度末キャッシュ・フロー  円

問3 正味現在価値  円

※マイナスのときは△を付けること。

実行すべき      実行すべきでない

問4 第3年度末キャッシュ・フロー  円

試験場校名	受験番号	【1】の得点	【2】の得点	【3】の得点	【4】の得点	【5】の得点	得点合計



主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会  
 会計実務検定試験模擬問題（第1回） 管理会計

## 解 答 用 紙

【1】

1	2	3	4	5	6
ク	ア	ウ	シ	コ	イ

【2】問1 (1) 年間の損益分岐点の販売量 3,000 個

(2) 売上高営業利益率が6%になる販売量 3,600 個

(3) 安全余裕率 4 %

問2 (1) 製品甲 4,000 個      製品乙 3,000 個

(2) 月間営業利益 2,366,000 円

問3 (1)

	製品A (900個)	製品B (600個)
南北商店への売上原価	322,600 円	316,600 円

(2)

	製品A (900個)	製品B (600個)
南北商店への売上原価	335,000 円	323,600 円

勘定科目	試算表		予 算		仕 掛 品		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金預金	1,000		9,140	9,140					1,000	
受取手形	560		2,280	2,340					500	
売掛金	860		6,640	6,800					700	
有価証券	200								200	
製品	567		567	567			567	567	567	
仕掛品	377		377	377	377	377			377	
材料	100		1,940	1,939					101	
その他流動資産	20								20	
建物	4,500								4,500	
機械設備	640								640	
工具・器具・備品	420		30						450	
土地	6,000								6,000	
支払手形		200	1,000	900						100
買掛金		1,050	1,990	1,040						100
長期借入金		1,500								1,500
建物減価償却累計額		1,350		150						1,500
機械設備減価償却累計額		320		80						400
工具等減価償却累計額		280		80						360
資本金		10,000								10,000
利益剰余金		544								544
売上				8,920				8,920		
売上原価							6,271			
直接材料費			1,939		1,939					
直接労務費			2,850		2,850					
製造間接費			1,482		1,482					
販売費及び一般管理費			2,008				2,008			
製品製造原価						6,271	6,271	6,271		
支払利息			90				90			
当期純利益							551			551
	15,244	15,244	32,333	32,333	6,648	6,648	15,758	15,758	15,055	15,055

【4】(1) 2,900 円

(2)

変動原価差異	数量差異	80,000 円	(借方・貸方)
	賃率差異	328,000 円	(借方・貸方)
	予算差異	70,000 円	(借方・貸方)
	能率差異	90,000 円	(借方・貸方)
固定原価差異	固定販売費及び一般管理費差異	70,000 円	(借方・貸方)

【5】問1 設備の減価償却費 2,400,000 円

問2 第1年度末キャッシュ・フロー 2,700,000 円

問3 正味現在価値 △48,972 円

※マイナスのときは△を付けること。

実行すべき 実行すべきでない

問4 第3年度末キャッシュ・フロー 2,682,000 円

試験場校名	受験番号	【1】の得点	【2】の得点	【3】の得点	【4】の得点	【5】の得点	得点合計